

1 単元 SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 Our Project 8 “あなたの町を世界にPRしよう”

2 指導観

- 新型コロナウイルスは世界中で猛威を振るい、ロックダウンや緊急事態宣言などにより、福岡の外国人入国者数は412万人。前年度の13%程度まで減少し、観光業に大きな打撃を与えている。この状況下で、自身の故郷の伝統や文化などの魅力を世界に発信する力が求められている。

本単元は、外国人観光客を福岡に呼び込むための動画を制作することを通して、相手を説得するための文章構成や表現方法、内容、間、強勢などの英語特有の非言語的要素を身につけることをねらいとしている。学習内容としては、関係代名詞 who, which (主格)、英語の音声の仕組みや英語らしい発声の仕方、間や抑揚、強調の仕方などがある。

この学習を通して生徒は福岡の観光名所や観光資源について知り、それらについてより詳しい情報を提示することで、外国人に良さを伝えることが求められる。また、動画に対してナレーションを録音することで、子音の連続やリンキング、リダクションなど英語特有の発音の特徴や日本語との違いを捉えることができる。したがって、本単元を学習することは、豊かな言語感覚を養い、聞き手の状況や反応を予想しながら、情報の提示の仕方を判断したり、より詳しい情報を伝えるための技能を適切に使いこなしたりする力を育成する上で大変意義深い。

○

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本単元の指導にあたっては、新型コロナウイルスで激減した外国人観光客を再び福岡に呼び戻すためのPR動画を制作する活動を通して、相手を説得するための文章構成や表現方法、内容、間、強勢などの英語特有の非言語的要素を身につけさせたい。そのためにまず、紹介する福岡の観光地を決定させる。ここでは、学習課題に対しての必然性を持たせるために、福岡の観光消費額が大幅に落ち込んだ福岡市観光統計のデータを提示する。次に、福岡の観光地を紹介する台本を作成させる。ここでは、関係代名詞(主格)の用法を把握させるために、福岡にまつわる人物を紹介させたり、東京タワーの特徴を表す例文を提示したりする。さらに、福岡の観光地の紹介動画を撮影する。ここでは、音量、抑揚、動画とのマッチングの点で、効果的な発話になっているかを確認させるために、評価シートに記入させる。その際、リンキングやリダクションなどの英語特有の発音方法に気付かせるために、英語の音声を、原稿を見ながら聞かせ、文字の通りに発音されていない部分でどのように発音されていたのかを問う。最後に、福岡の観光地の動画を作る活動を振り返る。ここでは、本単元での成果と課題を振り返らせるために、1回目と2回目の動画を比較させ、工夫した点や変わった点を問う。

3 目標

- 関係代名詞(主格) who, which の意味や用法を把握し、それらを用いて、福岡の観光地について、その特徴や発祥など、詳しく説明することができる。
- 福岡の観光紹介動画を制作する活動について、外国人に福岡の魅力を知ってもらうために、映像に合わせた、情報量や発話方法を工夫しながら動画を撮影することができる。
- 福岡の観光紹介動画を制作する活動について、外国人に福岡の魅力を知ってもらうために、時間や伝える対象など、映像に合った簡潔な紹介文を作ろうとしている。

4 計 画 (1 1 時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	手だて (○) 研究に関する手だて (◎)	評価規準
一	2	<p>学習課題 福岡観光紹介動画を作ろう</p> <p>1 紹介する福岡の観光地を決定する。 (1) 紹介する福岡の観光地について話し合う。 ・福岡の観光名所 (2) 福岡の観光地の紹介内容と分担について話し合う。 ・外国人が福岡県に求める要素 ・福岡県の魅力</p>	<p>○ 学習課題に対しての必然性を持たせるために、福岡の観光消費額が大幅に落ち込んだ福岡市観光統計のデータを提示する。</p> <p>○ 紹介する内容を吟味させるために、日本人、外国人両者の視点から見た福岡の魅力を話し合わせる。</p>	<p>態：自分の住んでいる地域の魅力を、外国人に伝わるような動画にしようとしている。</p>
二	4	<p>2 福岡の観光地を紹介する台本を作成する。 (1) 福岡の観光地について説明するについての文を作成する。 ・関係代名詞 who (主格) の用法 (2) 観光地のおすすめについての文を作成する。 ・関係代名詞 which (主格) の用法 (3) 台本を付加修正する。 ・ナレーションの要素・構成 (4) 作成した台本を班で交流する。 ・パラフレーズの有用性</p>	<p>○ 関係代名詞 who (主格) の用法を把握させるために、福岡にまつわる人物を紹介する。</p> <p>○ 関係代名詞 which (主格) の用法を把握させるために、東京タワーの特徴を表す例文を提示する。</p> <p>○ 時間的な制約がある中での表現の方法に気付かせるために、海外のCMを視聴させる。【B6】</p> <p>◎ 多様な表現や方法に気付かせるために、他班と交流する場を設定する。【A3】【C2】</p>	<p>知：関係代名詞 who, which (主格) を使って、福岡の観光地の特徴を文で表現することができる。</p> <p>思：限られた時間や語数で、福岡の観光地の魅力を表す文章を作成することができる。</p>
三	4	<p>3 福岡の観光地の紹介動画を撮影する。 (1) 紹介動画の撮影に向けた練習をする。 ・自身の話し方の特徴や癖 (2) 紹介動画を撮影する。 ・音声録音時の発話方法</p>	<p>○ 聞き取りやすい発話であるか自己評価させるために、録音したものを聞かせ、聞こえ方を問う。</p> <p>○ 録音時の発話の注意点に気付かせるために、会話と録音時の発話方法の違いを問う。</p>	<p>思：映像に合わせた、発話方法を工夫しながら動画を撮影することができる。</p>
	本時	<p>(3) 録画した動画を他の班と交流、評価し合う。 ・動画に合わせた発話の要素</p>	<p>◎ 音量、抑揚、動画とのマッチングの点で、効果的な発話になっているかを確認させるために、評価シートに記入させる。 【A3】【C2】</p>	
		<p>(4) 評価シートをもとに動画を撮り直す。 ・強勢や間の必要性</p>	<p>○ より、動画に適した発話を意識させるために、評価シートを参考に不足している部分を改善するよう促す。</p>	
四	1	<p>4 福岡の観光地の動画を作る活動を振り返る。 ・福岡の観光地を紹介することの価値 ・本題材での成果と課題</p>	<p>◎ 本題材での成果と課題を振り返らせるために、1回目と2回目の動画を比較させ、工夫した点や変わった点を問う。 【A3】【B6】</p>	<p>態：本題材の成果と課題から、次の学習へ結びつけようとしている。</p>

5 本 時 令和3年11月2日(火) 第3校時 計画 第三次の3 3年2組教室にて

(1) 主 眼

○ 録画した福岡の観光地紹介動画を他の班と交流，評価し合う活動を通して，映像に合わせた，発話方法に必要な工夫を把握することができる。

(2) 準 備

- ①学習プリント ②スピーチ動画 ③動物の動画 ④評価シート
⑤動画ファイル ⑥振り返りシート

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	手だて(○)と評価(◇)	形態	配時
<p>1 前時を振り返り，動画に合わせるナレーションの工夫について話し合う。</p> <p>・録音時の発話方法の工夫</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>Today's Goal お互いの動画を見て，ナレーションの改善点を見つけよう。</p> </div>	① ②	○ 人の顔を見て話す会話との違いに気付かせるために，話している人の動画と，同じ内容で音声だけのものを視聴させ，その違いを問う。	一斉	5
<p>2 動画にナレーションを加える際に必要なことについて話し合う。</p> <p>・ナレーションに必要な要素</p>	③	○ 映像を補完するための音声表現役割に気付かせるために，動物についての2本のナレーションを聞かせ，ナレーションに必要な要素を問う。	一斉	10
<p>3 録画した動画を班同士で見せ合う。</p> <p>(1) 他の班の動画を視聴し，発話方法について評価する。</p> <p>・対象を意識した発話</p> <p>(2) 評価シートをもとに，他の班と意見を交流する。</p> <p>・間や抑揚などの音声表現の必要性</p>	④ ⑤	◎ 明瞭さ，抑揚，速さや間などの点で，見せる対象を意識した発話になっているかを確認させるために，評価シートに記入させる。 【A3】【C2】	個	25
<p>4 本時を振り返り，次の活動へ向けた改善点を把握する。</p> <p>・動画に合わせる発話方法の工夫の必要性</p>	⑥	○ 次時に向けた自分の課題を把握させるために，評価シートをもとに，自身の動画と他の班からの評価を比較させ，改善できる項目を挙げさせる。 ○ 動画の特性を知り，それを補完する発話方法の工夫の必要性に気付かせるために，あらためて本題材の目的・相手を提示する。 ◇ 相手に合わせたナレーションにするために，抑揚や文の区切りなど，必要な要素を記述することができたか。 ＜評価シート分析，学習プリント分析＞	個 ↓ 小集団 個	10